

# 「第4回 製剤機械技術学会 仲井賞若手研究者奨励賞」 受賞者の選考結果について

## The 4th NAKAI Young Investigator's Encouragement Award of the Japan Society of Pharmaceutical Machinery and Engineering

仲井賞選考委員会 委員長 瀬田 康生

Yasuo SETA

Chair of Selection Committee of the NAKAI Award

本学会では創立10周年を機に、2000年より「仲井賞」を設定し、製剤機械技術の進歩と発展に貢献した個人又はグループの功績を顕彰しております。2017年1月に本会名誉会長仲井由宣先生がご逝去されました。製剤機械技術学会は仲井先生のお持ちであった本会創設にあたっての理念、目標を継承、発展することを目的とし、新たに「仲井賞若手研究者奨励賞」を設け、基礎研究、応用研究、または技術開発を通じて優れた業績を上げた40歳未満の会員を表彰することにいたしました。

仲井賞選考委員会において、応募内容について、慎重かつ厳正に審査した結果、下記を「第4回 製剤機械技術学会 仲井賞若手研究者奨励賞」受賞者として会長に報告し、理事会にて受賞者が決定いたしました。

### 記

・受賞者：井上 元基 (明治薬科大学)

・受賞業績題目：低波数ラマン分光を活用した原薬結晶形の評価

・受賞理由：医薬品、特に経口投与の場合にその原薬の固体形態を詳細に評価しておくことは、生物学的利用能を含む原薬の品質の保持の観点から重要である。また現在、医薬品の生産はバッチ製造から連続生産へとシフトしつつある。このような状況では非破壊・非接触で短時間に製剤中の原薬の定量や固体状態を測定できる分析法が求められている。こうした分析法であれば製造中の検査 (PAT) として使用できる。受賞者は低波数ラマン分光にケモメトリックス解析と透過法を組み合わせることで、従来は精度が低かったりしたために困難であった製剤中の原薬結晶形の評価が可能であることを報告している。今回選定したラマン分光法は非破壊・非接触で短時間での測定が可能な分析法であり、更に従来の評価方法では極めて困難であった製剤中 (原薬 + 添加剤) における塩結晶や共結晶の存在状態、具体的には固形製剤中での塩結晶・共結晶の分解や塩・共結晶多形間の転移の評価が可能である。また、NIR やテラヘルツなど測定方法、分析対象そして分析目的によって使い分けが進めばより使いやすい技術になると期待できる。

受賞者は、今後ますますの活躍が期待される若手研究者であり、仲井賞若手研究者奨励賞の受賞者に相応しい人物と考えます。

以上